

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771000197		
法人名	株式会社マインド		
事業所名	グループホームまいんど福の里 (2F)		
所在地	二本松市向原265-5		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成30年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年、事業所の年度目標を設定し目標達成に向けて取り組んでおり、今年度は、【皆で考え行動し達成する。「できっこないをやらなくちゃ」】を事業所目標に設定した。利用者様の介護度も以前より高くなっており、身体面、精神面で介護量が増えてきている。以前よりできないことが多くなってきてはいるが、「できない」で終わらせず、何が問題でできないのか、どうしたらできるかを皆で考えて行動しながら、達成できるようにし、利用者様に日々の達成感を感じ、張り合いが持てる生活が送れるよう支援している。また、地元の職員が多く勤務しており、地域の特性を把握しながらサービスを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や年度目標を申し送り時に唱和し全職員が把握している。事業所の年度目標に対しては、3つの視点(お客様、人材、財務)から行動計画を立て、振り返りを行いながら達成に向けて取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事、そば打ち会、避難訓練には、毎回地域の方の参加を頂いており、そば打ち会では打ち立てのそばを利用者様と一緒に食べて頂き交流を図っている。避難訓練には地元消防団の協力も得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターキャラバンメイトの研修を受けた職員がおり、認知症について講座の依頼があれば対応できるように準備している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	毎回の会議で、利用者様の状況、施設での活動状況を報告している。特に事故、ヒヤリハットに対しての対策に繋がるご意見を頂き、検討や改善を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の受入れに関して市役所の担当者と連携を図っている。生活保護の利用者の担当者とは面談時に情報を頂いている。地域包括支援センターとは、運営推進会議時に情報を共有できるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内の身体拘束廃止委員会が中心となり、目に見える抑制だけではなく、言葉や声掛けによる抑制についても事業所内で勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務マニュアルを徹底し、スタッフ会議時に勉強会を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している方はいないが、必要時には支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書、重要事項説明書を読み上げながら説明している。不明な点があればその都度詳しく説明し、安心して入所頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、年2回の家族会、年1回実施しているお客様アンケートで、色々な意見、ご要望を頂き運営に反映している。また、ご家族様面会時にも「何かお気付の点があれば」と伺い、出来るだけ多くのご意見を頂くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や提案があった場合はその都度話し合い、必要と思われることは上司に提案、確認しながら、運営の向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より、キャリアパス制度が導入された。個々の等級での目標が明確になり、スキルアップを目指せる環境が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の経営哲学を基に、人材育成システムを導入し、6回の基礎研修会を実施。研修制度を充実させることで、社員にとって働きがいのある会社で、質の高い介護サービスが提供できるよう目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO法人福島県グループホーム協議会の研修会や、管理者会議に出席し、情報交換によりサービスの質の向上に繋がるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の心身の状況、生活状況をもとに、ご本人のニーズを把握し、家庭的な雰囲気の中で安心した生活が送れるように努めている。入所直後は不安をなくすため、本人に寄り添い傾聴する事に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に、施設入所に至るまでの経緯や、ご本人の家庭での生活状況から、施設での支援に対する要望を伺い、不安なく安心した生活が送れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所する際に、生活歴や現在の状況を詳しく伺い、入所後はセンター方式の24時間シートを記録用紙に導入し、ご本人の心身の状況や思いを把握できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事の見極めをしながら、食事作りをしたり、洗濯物たたみなど、出来る事を中心に支援している。誕生日には職員と一緒に外食にも出掛けている。家庭の延長的な生活を職員と共に過ごせるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花見会、いも煮会にはご家族様をご招待している。レクリエーションにも参加して頂き、食事を共にしながら楽しい時間を共有できるようにしている。また、定期受診のご協力も頂くなど、共に支え合う関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	二本松の菊人形見物には毎年出掛けている。10月の提灯祭りには、神輿が施設門前でお囃子を打ち若連の方と一緒にお囃子に合わせ掛け声を掛けながら踊る楽しい光景が見られている。また、馴染みの美容室を利用している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や相性等に配慮し、定席はあるが、その時々で席の移動をしたりしながら、良い雰囲気でご過ごせるようにしている。利用者同士が支え合うよう、スタッフが常に間に入るのではなく、状況を見ながら間に入り、関係性が保たれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所時からの関係性を大事に考えている。退所後も、利用者様のご家族様が時々近況報告に訪問して下さることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人が言った言葉や行動を通してニーズを把握し、職員間で共有している。言葉で思いを伝える事が困難な利用者様には、二択での質問をしたり、表情で思いを把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、入所前の生活歴や生活環境などの基本情報を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方は皆さん違っているので、利用者様一人一人の状況を把握しその方にあつた支援をするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが中心となり、居室担当者がプランに対してのモニタリングを行い、カンファレンスを行う。今何が課題かを話し合い、本人の要望、ご家族様の要望を聞きプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の内容以外にも新たな気づきがあれば、介護記録に残しておきカンファレンス時に介護計画の見直しをしている。現状に即した介護計画を立てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から柔軟な対応に努めているが、事業所だけで支援しきれない部分は、ご家族様に相談しながら、介護保険外のサービスなどを活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の敬老会に参加し交流を図ったり、近くの保育園の運動会に招待され参加するなど、地域との関わりを持ちながら楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は定めてあるが、希望によりかかりつけ医との関係も継続できるようにしている。認知症専門医の診察を受けることができるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の巡回看護師の訪問が定期的であり、利用者様の健康状態を確認してもらっている。状態の変化があった場合は報告し、適切な指示を受けるなど、早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、病院の相談員の方と連絡を密にとり、早期退院ができるようにしている。退院に向けても、利用者様の状態を把握しスムーズに施設での生活に戻れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化、終末期について事業所での対応について説明をし、ご家族様の意向確認をしている。入所後状態の変化に合わせ、その都度話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回消防署での普通救命講習を受け、緊急時の対応ができるように訓練している(AEDの使い方、心肺蘇生法)。急変時の対応マニュアルも整備され、いざという時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署立合いの避難訓練を、近隣住民や地元消防団の協力を得ながら実施している。地震や水害に対しての訓練も消防署にアドバイスを頂き実施している。災害があった場合の緊急連絡網の訓練や防災用品、非常食の点検、補充も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷付けないように、入浴介助、排泄介助の際は声掛けに配慮している。声の大きさやトーンにも気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人が言った言葉や行動を通して本人の希望を把握し情報を共有している。意思の疎通が困難な利用者に対しては、表情で思いをくみ取ったり、二択での質問をするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで生活して頂いている。天候を見て散歩したりドライブしたり、入浴も希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に行けなくなった方には、ホームでの白髪染めなど、おしゃれが継続できるような支援も行なっている。面会時にご家族様が安心できるように身だしなみや清潔に心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理の下準備や盛り付けを一緒に行ったり、下膳、食器洗い、食器拭きのお手伝いを頂いている。食事コミュニケーションを取りながら一緒に摂っている。メニューにも季節感を感じて頂くようにしている。また、外食支援も要望を聞きながら実施している。食事前の嚥下体操を日課としている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	JAと提携しており新鮮な食材で栄養バランスも確保している。人工透析を受けている利用者様は水分制限があるが水分チェック表を活用し確認している。食事量が少ない方には高カロリーゼリーも提供するなど、一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔にすることで誤嚥性肺炎の防止にも努めている。利用者の個々の能力に合わせ、声掛け見守り、一部介助、全介助の支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用、トイレでの自然排泄を心掛けている。時間をみて声掛けしたり、トイレ誘導するようにし、現在は日中オムツを使用している方はいない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便薬に頼らず、体を動かす体操をしたり、食事にも食物繊維や乳製品を摂るようにしている。排便がない時は、排便チェック表により排便薬の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望を聞きながら入浴して頂いている。楽しく入浴できるよう入浴剤を使ったりし温泉気分を味わって頂いている。季節ごとに、菖蒲湯、ゆず湯などを取り入れ、季節感を感じて頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせた室温や湿度、照明の調整で安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を確認し、処方薬が変わった場合には、管理日誌に記録しスタッフ全員に周知徹底している。服薬時は日付、氏名、朝、昼、夜を声に出し確認し服薬事故を防止している。服薬の準備も二重チェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある生活を送って頂くために、出来る事は役割を持って頂いている。誕生会、花見会、いも煮会などの行事の際はノンアルコールのビールも提供している。職員によるレクリエーションやアコーディオンボランティアの音懐かしい歌で楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿った、買い物や外食支援をしている。毎年二本松の菊人形見物には全員行くようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は個人での金銭管理が難しい方が多いため、本人の要望があった場合には買い物の支援等を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話を掛けたりする方はいないが、ご家族様やご兄弟から電話があった場合はご本人に直接変わり、話しをして頂くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの掲示物に季節感を出した装飾をしたり、季節のお花を飾ったりし居心地の良い空間作りを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、誰でもくつろげるようにしている。利用者の定席を決めることで、そこが自分の落ち着ける居場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入所後安心して生活して頂くために、今まで使っていたタンスや馴染みの物、仏壇等も持って来て頂き自分の家のような環境で生活して頂くようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室表札、段差解消、手すりの設置、目印(トイレエレベーター)等で自立した生活ができるよう工夫している。		